

2017

8-9月

はしかけニューズレター

2017年度 第3号 通巻136号

2017年(平成29年)8月1日発行



編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 戸田・大塚・下松・八尋・松村)
 住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4812 ファックス: 077-568-4850
 電子メール: hashi-adm@lbn.go.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <http://www.lbn.go.jp/>

～ 目 次 ～

1. びわ博フェス 2017 を終えて
2. 「はしかフェ」のご案内
3. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 淡海スケッチの会 (3) 近江はたおり探検隊 (4) 大津の岩石調査隊 (5) 温故写新
- (6) くらしをつづる会 (7) 古琵琶湖発掘調査隊 (8) 湖(こ)をつなぐ会 (9) ザ! ディスカバはしかけ
- (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生き物調査グループ
- (14) タンポポ調査はしかけ (15) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (16) びわたん
- (17) ほねほねくらぶ (18) 緑のくすり箱 (19) 森人 (20) ちっちゃなこどもと自然であそぼう
- (21) 近江 巡礼の歴史勉強会 (22) 虫架け

生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 ……334人
 グループ数 22 グループ
 (2017年7月13日現在)

1. びわ博フェス 2017 を終えて

7月8日(土)、9日(日)にかけて、「びわ博フェス2017」を開催しました。ご協力頂きました、はしかけグループ、フィールドレポータースタッフの皆様、どうもありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。内容については、各会場ではしかけ12グループとフィールドレポータースタッフによるワークショップと、アトリウムで、はしかけ、フィールドレポーターのポスター展示を行いました。ワークショップについては、概ね、どのプログラムも満員御礼、開始前から長蛇の列ができていたり、開始の30分前には予約が完売してしまったワークショップもありました。ポスター展についても多くの方が足をとめて、はしかけグループの活動紹介を熱心にご覧頂いていたように見受けました。8日(土)の午後には、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞の4社が取材に来られ、翌日の朝刊に3紙で取り上げて頂き、「うおの会」と「びわたん」のワークショップについて記事が掲載されました。ワークショップを開催した皆様には、来館者や他のはしかけ会員との交流を深めて頂けたことと思います。

さて、来年度のびわ博フェスはどのような形で開催するか、今年度の結果を踏まえ今後検討いたします。今年度と同様のかたちでの開催の場合、ワークショップについては非常に集客効果が高く、今回のように報道で取り上げられれば、グループの良い宣伝となりますので、今回未参加のグループにつきましても次回はぜひご参加を検討下さい。また、ポスター展会場では、今回「古琵琶湖発掘調査隊」の皆様が活動紹介を実施されていました。こちらも、来館者に直接、活動をアピールできる機会ですので、次回は他のグループの方もご検討下さい。

今後もはしかけグループ皆様のご協力を頂きながら、より良いイベントを企画していければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
 (びわ博フェス主担当 下松 孝秀)



びわ博フェス2018にむけて、みなさまのご意見・アイデアなどをお寄せください。

連絡先: 交流係 (電話: 077-568-4812 ファックス: 077-568-4850 電子メール: hashi-adm@lbn.go.jp)

2. 「はしかフェ」のご案内



第4回目は 10/15 (日)
「広がる交流活動の可能性を考える」

ぜひご参加ください！！

こんなはしかけ会員のみなさんにおすすめ

- ・もっと活動、発信の場が欲しいグループ
- ・はしかけ登録したけれど、具体的に何をしようか悩んでいる方
- ・新しいグループを作りたい方。
- ・びわ博の交流活動に要望のある方
- ・びわ博でのいろいろなイベントと一緒にやってみたい方
- ・他のはしかけさんや学芸員と交流したいと考えている方

第3回目は、7月8日(土)びわ博フェスに合わせ、誰でも出入り自由、お茶やお菓子を用意し、はしかけ会員からの相談を受け、同時に、交流の場になればと、セミナー室にて終日「はしかフェ」をオープン。イベントの休憩時間を使って、学芸員やはしかけ会員がつつぎに談笑し情報交換をしました。

第4回目では、第2期の目標のひとつ、小グループ向け体験展示空間「わくわく体験スペース」について説明します。はしかけの皆さんと、あらたな展示空間を活動でどう使うことができそうか一緒に考えていきたいと思います。各グループで運営を担当している人、やりたいことを、どうやって進めるか悩んでいる人、新会員でとりあえず話が聴きたい人、いろんな立場のひとがあつまって話せる機会になれば幸いです。カフェでくつろぐような雰囲気のなか話をしますので、ぜひ気軽な気持ちでお越しください。この機会を使って、違うグループのはしかけの皆さん同士のあいだにも交流が生まれればうれしく思います。



対 象：2017年度はしかけ登録者

日 時：10月15日(日) (はしかけ登録講座の日です)

場 所：生活実験工房

内 容：わくわく体験スペースの概要説明、博物館でしたい交流についての話し合い、活動についての悩み事 + 雑談

参加方法：当日参加OK (ご参加を予定しているかたは、事前にご連絡ください)

担 当：はしかフェ事務局 妹尾

連絡先：電子メール: hashi-adm@lbm.go.jp 電話: 077-568-4811

【活動予定】 ※この予定は、変更の可能性あります。

① 10月15日(登録講座) ② 12月20日 ③ 3月11日(登録講座)

(妹尾裕介)

3. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 57名】

グループ代表アドレス: uonokai@lbm.go.jp

グループ担当職員: 松田征也

【活動報告】

■5月21日(日) 場所: 伊佐々川、伯母川、十禅寺川、長沢川、狼川、草津川 参加者: 19名

第126回定例調査

5月21日(日)、うおの会第126回定例調査が行われました。集合場所の矢橋帰帆島は、すでに大勢の家族連れやスポーツをしに来た人たちでいっぱい、陽射しも強く文字通り暑い調査になりました。

今回の定例調査では、調査河川が複数であること、繁華街を流れる河川であることがいつもと異なっています。集合場所の広い駐車場とは異なり、調査地点付近に駐車スペースが確保できるかが問題となりました。各班とも移動に用いる車を1台に制限し、それぞれが乗り合わせて調査に向かいました。

治水・利水に長けた都市部の河川の特徴でしょうか、三面コンクリートや、水路のようになっており、魚にとっては住みにくい場所に思えます。このような状況の中でしたが、堆積した泥や水生植物の陰に身をひそめながら生活する魚たちと出会うことができました。河川の姿にいろいろな思いを馳せる調査となりました。(報告: 手良村知央)

■6月3日(土) 場所: 淀川・城北ワンド 参加者: 13名

イタセンネット見学会

今回は滋賀県を飛び出し、淀川で特別天然記念物イタセンパラの保全に取り組んでおられる「イタセンネット」の活動に参加しました。全員の自己紹介後、早速ワンドにて地曳き網により魚を採集。うおの会会員も胴長を履き、最前線で網を引きます。タモロコ、モツゴ、カネヒラなどの他、ヨドゼゼラ、ゴクラクハゼ、ボラの稚魚など、滋賀県では見られない魚がとれ始めると、うおの会会員は物珍しさに魚の入ったバケツを取り囲む状況に。イタセンパラよりもボラが人気という、琵琶湖に拠点を置くうおの会ならではの光景でした。個人的に印象的だったのはタモロコの体型で、とても細長く、一見するとホンモロコのような様子でした。

肝心のイタセンパラは時期的に稚魚が採集されたのですが、カネヒラ稚魚との見分けがとても難しい！イタセンネットの熟練の方に教わりながら魚を選別しました。最後は頭上の菅原城北大橋に上がり、ワンドと梅田のビル群を眺めながら、高田副会長（イタセンネットでも副会長をされています！）に城北ワンドの形成と保全の歴史を熱く熱く語って頂きました。

天候に恵まれ、イタセンネットの皆さんとの交流もでき、何よりも滋賀県では見られない魚を観察することができて、充実した会となりました。なおイタセンネットのブログ（下記URL）にて、うおの会の活躍？も含め、当日の様子が紹介されています。是非ご覧ください。 <http://itasennet.exblog.jp/237070132/> (報告: 中尾博行)

■6月18日(日) 場所: 知内川 参加者: 25名

第127回調査

少し曇り模様の中、5班に分かれ、10時から14時まで知内川流域で調査を行いました。調査を始めると天気も良くなっていき気温も上がり、良い調査日和となりました。確認された魚種は、イwana、ウツセミカジカ、カジカ(大卵型)、アカザ、タカハヤ、アブラハヤ、ビワヒガイ、タモロコ、カワムツ、フナ類、ドジョウ、シマドジョウ類、ドンコ、ヨシノボリ類、アユ、コイ(ニシキゴイ)、オオクチバスの19種類でした。

魚以外では、サワガニ、アカハライモリ、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、ウシガエルなどが捕まえられました。調査終了後、一部の方は桑の実の採集も行ったそうです。(報告: 中島 財)

【活動予定】

■7月8日(土) びわ博フェスへの出展

■7月16日(日) 第129回定例調査 日野川中・下流

■8月は、調査活動はお休みです。

【連絡事項など】

■うおの会では、正確な会員数把握と連絡のために、はしかけ登録とは別に、年度ごとに「会員登録票」を提出頂いています。2017年度うおの会会員更新票が未提出の方は、至急提出をお願いします。

■更新票はうおの会ホームページからダウンロードでき、メールでの提出も可能です。忘れずにご提出下さい。特に、メール連絡先の変更がある方は必ずお知らせ下さい。



(2) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名 2回】

グループ代表アドレス: sketch@lbm.go.jp

グループ担当職員: 篠原徹, 榎永一宏

【活動報告】

- | | | | |
|-----------|-------------|---------------|---------------|
| ■5月28日(日) | 風景スケッチと吟行 | 場所: 大中(近江八幡) | 参加者: 7名 |
| ■6月25日(日) | びわ博フェス打ち合わせ | 場所: びわ湖博物館 | 参加者: 4名 |
| ■7月23日(日) | 風景スケッチと吟行 | 場所: 水生植物園(草津) | 詳細は、次号で報告します。 |

【活動予定】

- | | | |
|-----------|------------|--|
| ■8月27日(日) | 藤樹のさと(安曇川) | { 集合場所: (7月定例会にて打ち合わせをします)
{ 集合時間: 午前10時30分(午後3時解散予定) |
| ■9月24日(日) | 葛川(坊村) | |

※ 初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください



(3) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ代表アドレス: ouchihataori@lbm.go.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】

《織姫の会》

■5月27日(土) わくたん縄文ペンダント作り練習 参加者: 6名

わくたんの縄文ペンダント作りの練習をしました。オープン粘土に模様をつけて、オーブントースターで焼きました。粘土が硬かったので水をつけたら、焼いたときに割れやすいことがわかりました。当日用のサンプルをいくつか作成しました。

■6月10日(土) わくたん「ドキ土器! おしゃれもようを楽しもう」参加者: 2名

縄文土器のペンダントトップと、それを通す紐を作成しました。試作したときは模様のつけ方を迷いましたが、参加者の方は意外といろいろな趣向をこらした作品を製作されていました。次回は紐を先に作って、作った紐で模様をつけてみたいです。

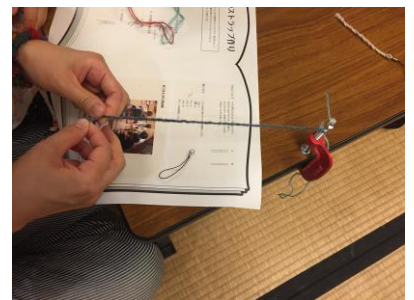
■6月28日(水) わくたん縄文ペンダント作り準備 参加者: 3名

びわ博フェスで縄文燃りのストラップ作りをするため、準備作業をしました。

■7月9日(日) びわ博フェス 参加者: 5名、体験者: 23名

縄文燃りのストラップ作りをしました。定員20名のところ、23名まで受け付けたところで和室がいっぱいになり、受付終了にしました。

作業自体はひもを撚るだけだったので、1時間程度を見積もっていましたが、実質30分ではほぼ完了しました。用意した紐が長めだったので、ストラップを輪にしたり、ブレスレットにしたり、こちらの想定外のものも製作されていて面白かったです。反省点として、撚り方のバリエーションがあり、その面白さを伝えきれなかったのが、改良を加えたいです。



7月9日縄文ストラップ作り

《その他》

■6月23日(金) 丹後の藤布展見学

参加者: 2名

丹後藤織り保存会の「丹後の藤布展」を見学に行きました。今までに製作された作品と藤績みの実演を見学しました。作品はどうやって作ったかがわからない変わった織り方のものがあり、作り方の説明を聞いたりして勉強になりました。

【活動予定】

《織姫の会》

- | | | | | |
|-----------|------------|-----------|------------|------------|
| ■7月26日(水) | ■9月13日(水) | ■9月30日(土) | ■10月11日(水) | ■10月28日(土) |
| ■11月8日(水) | ■11月25日(土) | | | |

※8月はお休みです。



(4) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: ganseki@lhm.go.jp

グループ担当職員: 里口保文

【活動報告】

■6月3日(土) 9:30~15:30 場所: 堅田丘陵 案内者: 服部

参加者: 9名

(1) 調査ルートと概要: 県立堅田高校に9:30に集合、車に分乗し、本調査の案内者である服部さんの先導で順次、説明を受け、調査をした。

比叡山や比良山系と琵琶湖の間に、一見するとのどかに存在する丘陵地に少し接近して調査すると、この丘陵地は実に複雑な動きをしていることが改めて分かった。服部さんをはじめ多くの人が時間をかけて丹念に調査している理由が分かったと同時に、未解明の部分も多いことも分かったつもりにもなった。いつものように隊員から地質の成因などに関する質問が続出した。この地域が調査領域である服部さんから丁寧な回答と討論があった。予定のルートに従い、火山灰と小断層、断層急傾斜体(古琵琶湖)、途中で昼食を堅田高校で取り、立派な岩石の資料なども見せていただき、さらに堅田断層の地層急傾斜帯、栗原 III 火山灰等の説明を受け、観察・調査・議論をした。案内役の服部さんは事前に露頭周辺の草刈、また地元との調整も頂いたので、スムーズに調査が出来た。また、当日は予想に反して暑くなかったことも幸いであった。

(2) 調査地点のポイント

- ・雄琴川中流: 堅田累層が西落ちしている説明とその成因のモデル図を用いた説明を受けた。モデル図が巧く描かれていたので理解しやすかった。
- ・上仰木: のどかな高原のようなところに棚田が広がり、その頂き部にほぼ水平に火山灰層が延び、そこに小断層がある。案内役の服部さんから説明して頂いた。ズレ量もわかる貴重な場所である。すべり面は強く赤褐色化している。その部分をごく少量採取しルーペで見たところ硫化鉄の結晶と思われるものが見えた。なお、硫化鉄の結晶は多くの断層すべり面付近で見える。また、すべり面近傍の火山灰層が凹凸化しているような部分もあった。火山灰層の厚さが変動している場所も調査できた。岩石の断層露頭は何度も見ているが地層の断層露頭をこれほど接近して見たことはなかったので大変参考になった。
- ・苗鹿: 竹やぶの中の丘の崖に露頭がある。急傾斜を示す地層とそれに不整合に乗っている礫層がある。急傾斜の地層の部分で、どちらの面が堆積時の下面であるのかを判定する一手段であるクロスミナの説明も受けた。ザクツとした感じでは膳所の茶臼山の工事現場の露頭に近似していると感じた。
- ・衣川: 崖というより土手や土留とも思える場所が断層であると教えていただいた。また、造成工事や水田の工事等で断層が見えにくくなっているところもあるとのこと。
- ・小野: 小野駅北方の小野地区に背後の丘陵から離れて小丘があり、その東面の一部が削り取られ地層が露出している。ここも苗鹿の崖と同様に上部に礫層、その下に砂と泥の急傾斜の互層がある。こんな小さな丘がこれほどに急傾斜の崖があることに驚いた。服部さんによるとそれは断層に近いためのこと。また、小さな地溝帯もあるとのこと。
- ・真野佐川: 火山灰の露頭がみられる道路の側面の真野佐川崖を見た。栗原 III 火山灰層とのこと。触ると断層ガウジと異なりざらつく。

【活動予定】

■7月28日(金) 博物館内での薄片作成を行います。

■8月18日(金) 勉強会を行います。

- 午前部: 中野特別研究員の講演
- 午後部: 研究セミナーでの里口学芸員の講演の聴講





(5) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ)23名】

グループ代表アドレス: onkosyasin@lbm.go.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

【活動報告】

■5月27日(土) 9:00~12:30

場所: 高島市(マキノ町在原、今津町平池)

参加者: 7名

おでかけ撮影会

マキノ町在原にある茅葺屋根の家など、私達がいま残したい滋賀の風景を撮影しました。
また、今津町にある平池にも行き、咲きはじめてはありましたが、カキツバタの群落を撮影することもできました。

■6月24日(土) 9:30~11:30

びわ博フェス 2017 の展示に向けた準備

参加者: 5名

7月8日~9日に行われるびわ博フェスの展示にむけて、写真展をするために、メンバーでどのような内容にするのかを話し合いました。今年度のテーマである「いま、残しておきたい滋賀の風景」をテーマにメンバーから写真を募集することになりました。

■7月7日(金) 14:00~16:00 びわ博フェス 2017 の展示設営

参加者: 3名

■7月8日(土)~9日(日) 9:30~17:00 びわ博フェス 2017 での展示および館内の記録撮影 参加者: 8名

びわ博フェスで写真展「いま、残しておきたい滋賀の風景」を開催しました。12名のメンバーの写真をアトリウムで展示し、多くの方々にご覧いただくことができました。
また、毎年恒例となりました、各イベントなどの記録撮影を行いました。

【活動予定】

未定です。



(6) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: kurashi@lbm.go.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】

守山の乗田さんのお話を紹介させていただきます。

『琵琶湖の鰻(エリ)』といえば、琵琶湖大橋から見える、大きなエリが有名ですが、琵琶湖のエリ漁を支えるえり作り(えり建て)を担っていたのは木の浜のエリ師さん達でした。エリ建てには、親方がいて、親方を中心に組がいくつかありました。琵琶湖岸のいろんな所に出向いてエリ建てをしました。組の中には女性もいて、竹を組むための紐作りなどお手伝いをさておられたそうです。水の流れを読んで、魚がよく入るように、さまざまな工夫がありました。また、大エリなどは真ん中を汽船が通れるようになっていました。この頃(昭和の初め)は、琵琶湖はさまざまなシーンで人々の生活を支えていました。』



イラスト: 中尾 奨

さて、今までの聞き取りをした所は、琵琶湖周辺では、南山田(草津). 木の浜(守山). 西の湖(安土). 白王(近江八幡)です。これからも、琵琶湖と暮らしを見つめ、たくさんお話を聞いて、資料にして行きたいと思います。これらの資料が未来の琵琶湖利用のヒントになればと思っています。

(中尾京子)



(7) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス:hakutsu@lbm.go.jp

グループ担当職員:山川千代美

【活動報告】

■6月10日(土) 場所:服部川の河床(三重県伊賀市)

参加者:6名

古琵琶湖層群上野層の地層観察および化石の観察と採集

今回の活動も気持ちの良い晴天に恵まれ、午前10時集合予定でしたが、午前9時半ごろには参加者全員が集合できました。

当日の服部川は水量がとても少なく、河床が広く露出していて、足跡化石のアンダープリントなども観察しながら、下流に向かって河床を観察しました。その途中、メンバーの方が植物(マツ属)の球果化石を見つけたので、前回の活動で学んだことを活かして化石が見つかった場所をノートに記録し、あわせて土の粒子の大きさや化石の埋まっている状態など、化石の産出状況も観察しました。

また、今回のフィールドでは、川岸に張り出した地層・服部川Ⅱ火山灰層が見られ、対岸にも露出しているのを確認しました。川床や川岸に露出した地層を観察しながら約300mのフィールドを歩きました。地層を立体的にとらえることは感覚的にとても難しいですが、足元の化石が産出した場所(平面)だけではなく、地層の縦や横のつながりを意識することで、自分自身がまるで広い堆積場の中にいるような、とても不思議な感覚を持ちました。

2時間位の活動時間でしたが、植物(マツ属)の球果化石やイガタニシの化石、咽頭歯の化石を発見し産出状況の観察を行い、今回も充実した活動を行うことができました。



マツ属の球果化石



服部川Ⅱ火山灰層が露出した川岸

■6月20日(火)

場所:琵琶湖博物館

参加者:3名

びわ博フェスの打ち合わせ

びわ博フェスでのポスター展示の際に活動紹介(7月9日(日)13時から15時)を行うことになり、準備等の打ち合わせをしました。

■6月22日(木)

場所:琵琶湖博物館

参加者:2名

びわ博フェスの準備

びわ博フェスで行う活動紹介で皆さんに見ていただく化石を選び、コンテナにひとまとめにしました。植物化石は見やすくするためにビンに綿を詰め、展示用の液浸標本を作りました。

また、標本ラベルや活動紹介の告知も作成し、活動紹介の時以外で実物の化石を置いていない時にも見てもらえるポスター用の化石の写真も撮影しました。

■7月8日(土)・9日(日)

場所:琵琶湖博物館

参加者:3名

びわ博フェス

びわ博フェスではポスター展示を行い、7月9日(日)13時から15時には活動紹介を行いました。

【活動予定】

■8月6日(日) 微小な化石の水洗抽出実習 場所:琵琶湖博物館 実習室1



(8) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: ko-tunagu@lbn.go.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

6月の活動日は、はじめて「ホタルのホッティー物語」という紙芝居を上演しました。梅雨の時期でもあり、子どもたちに季節感を味わってもらえたらいと思ひ企画しました。博物館から大きなホタルのレプリカを借りることができ、ホタルの体のつくりも確認できました。7月は、びわ博フェスでの活動でした。毎年この時は会議室を利用でき、いつもよりも長く子どもたちと交流できます。「びわこの旅」の紙芝居のあとで、本物のヨシを紹介すると、あまりの背の高さに大人も子どもも驚きます。また、ヨシの利用方法としての「ヨシ笛」での演奏や、こども向けに短いヨシでつくった「ビービー笛」でカエルの歌を合奏して楽しみました。

【活動予定】

■9月3日(日) 集合: 13:00 紙芝居上演 場所: 実習室2 集合



(9) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@lbn.go.jp

グループ担当職員: 澤邊久美子, 森智美, 片淵綾香

七夕の展示も終わりです。天の川は見られましたか? 6月はホタルの紙芝居が今年も大人気でした。また、新しい虹色の傘作りも、多くの皆さんに参加していただきました。ちょうど雨が降ったりやんだりのぴったりの日でした。7月はびわ博フェスで、葉っぱスタンプのハンカチ作りをしました。屋外展示にはたくさんのかたちの葉っぱがあります。緑のくすりばこの皆さんと初めて一緒に活動して、色々と教えてもらいました。

2017年12月以降リニューアル閉室中も活動予定です!

葉っぱのかたち、
いっぱいあるな〜。



【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけイベント	6月10日(土) 11:30-12:00	ゲンタのたんじょうものがたり(紙芝居)	ホタルの紙芝居が復活しました。今年も大入りでした。 参加者: 25名 (会員3名)
はしかけ準備	6月21日(水)12:00-	傘作りとびわ博フェスの準備、練習	傘作りの練習をしました。琵琶博フェスについても打合せをしました。 (会員2名)
はしかけイベント	6月25日(日)13:30-	虹色の傘作り	初めてのプログラム。たくさんの方に参加していただきました 参加者: 20名 (会員3名)
博物館イベント	7月9日(日)15:00-17:00	葉っぱスタンプでオリジナルハンカチを作ろう (共同開催: 緑のくすりばこ)	屋外展示の葉っぱを集めて、葉っぱのスタンプ柄のハンカチを作りました。葉脈がきれいに写って、とても素敵なハンカチがたくさん出来上がりました。 参加者: 20名 (会員3名)

☆ みんなでホタルを見ました。光るかな?



☆ 紙芝居の様子



☆ 端っこまでインクをしっかりとつけるのがポイント！



☆ こんなに素敵なハンカチができました



★ 小さい子は、折り紙で虹色の傘をつくりました



～メンバーからのメッセージ～Vol.36

小さい子の参加が多かったので、傘のパーツを作っておいたのは正解だったと思いました。虹色の・・・といいつつ、柄物の千代紙などが人気でしたが、それぞれが好きな傘を自由に作っていて、それはそれで良かったと思います。折り方で困っている子や手の止まっている子のフォローも出来たので、これぐらいの人数で良かったなと思います。今日は1回のみの実施でしたが、終了ですと言われて泣きながら帰っていった子がいたのがちょっとかわいそうだった気もしました。2回転ぐらいは出来ればよかったのかとおもいました。 (匿名)

～メンバーからのメッセージ～Vol.37

あのように葉っぱの葉脈がきれいに布にスタンプできるなんて！！予想以上の素晴らしい出来栄だったと思いました。お子さんはもちろん、一緒に参加してくださったお父さん、お母さんも夢中になっていらっしゃる姿が印象的でした。また、葉っぱの名前を教えてもらい、葉っぱの横に名前をスタンプしている子もいて、植物の勉強にもなるので、とてもいいアイデアだなと思いました。家に帰ってから、自分で出来そうなので、夏休みの自由研究にもいいんじゃないかなと思いました。

出来上がったハンカチを、「出来たよ～」と嬉しそうに見せてくれるお子さんの笑顔がとても可愛かったです。手伝ってくれたはしかけメンバーも、製作が出来たので、お客様もはしかけメンバーも楽しめた素晴らしい企画だったなと思いました。 (吉野)

～メンバーからのメッセージ～Vol.38

アクリル絵の具だと葉の形がくつきり濃く転写できたかもしれませんがベターとした感じになったと思います。布スタンプが思っていた以上にキレイにスタンプ出来て良かったと思います。葉脈がきれいに出来て、これにして正解だったと思います。また、ハンカチにしたのも、飾ってもいいし、ハンカチとして使ってもいいし、お弁当などを包むのに使ってもいいし・・・と後で活用できそうなのも良かったと思います。

雨も心配しましたが降らなかったし、それぞれが思い思いに自由に葉を選んで良かったです。大人も子どももスタッフもみんなが楽しめる良い企画だったと思います！！ (匿名)

【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
準備	9月(未定)	イベント準備、練習	飛ぶタネを飛ばそう(10月予定)に使う飛ぶタネを集めて、模型作りの練習をします。

☆ ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に澤邊またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

☆ 新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)しましょう！



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数 21名】

グループ代表アドレス:satoyama@lbm.go.jp(登録会員数 39名)

グループ担当職員:山本綾美

【活動報告】

■ 5月21日(日) 春の大篠原里山遊び

参加者:9名

里山の会のホームベース「はしかけの森」で里山遊びを楽しみました。

はしかけの森の入り口に、ハチクが食べごろで生えており、さっそく収穫！ワイルドにたき火で丸焼きして食べることにしました。はちくはたけのこの中でもあくがなく、外側の皮が丸焦げになったころあいで皮をむいて食べると、とてもおいしくいただきました。

森遊びの上級グルメ、燻製にも挑戦！いろんな食材を燻して食べてみました。やっぱり王道のチーズは美味！でも、メンバーが用意してくれた水切り豆腐とししゃももおつな味！！食べてるばかりではありませんよ、まだあまり蚊などの虫のいないさわやかな森の中に、ブランコやハンモックを取付けて遊びました。たくさん持ってきたいろいろな楽器で森の音楽会も楽しかったです。

(山本)



■ 6月23日(日) 潮干狩り

参加者 :4名

里山の会の6月度行事として、ここ3年恒例になっている潮干狩りを楽しみました。

今年の潮時を見計らい設定した6月23日(金)、朝8時半に野洲駅に集合して1の車に4名乗り合わせで出発しました。

行先は昨年と同じ三重県津市の御殿場浜です。この場所が気に入ったのは、無料駐車場があり、入浜料もない割には、ハマグリやマテガイなどがそこそこ採れるからです。(その代り、浜に入るまでに通過しなければならない海の家のお客引きには耐えなければなりません。) 現地に到着した時にはすでにかなり潮が引いていて潮干狩り客も繰り出していましたが、昨年よりは人出が少なく場所選びは自在でした。マテガイ班とその他の貝班とに分かれ早速始めましたが、マテガイの方は今年は全般に小ぶりながらも数が多く、採集の面白さを堪能できました。マテガイ採集のコツは、穴をいかに見つけるかですが、そのためには、溝掃除に使うジョレンや草削りのような表面の砂を掻き取る道具が必需品です。そうすると、マテガイの穴はその断面に合わせた楕円形で、他の生物の穴とは区別できます。後は塩をひとつまみ穴に入れてやるだけで飛び出しますが、その出方も色々あり下手をすると逃げられます。どのタイミングでつかむかの駆け引きが面白く、要領がわかれば大人も子供もはまること請け合いです。また、マテガイは二枚貝らしくらめ独特の形に食材として抵抗を感じる人もいますが、味は抜群で、砂抜きも不要という優れた貝なので、潮干狩りでぜひ試してはと思います。他の貝班もハマグリを含めてそこそこ採れ、全員満足して帰ることができました。

(宮本)



■7月2日（日）

場所:高取山ふれあい公園

参加者: 8名

琵琶博フェスワークショップ準備 & ピザ釜 ランチ

7/8 琵琶博フェス・里山の会イベントのペンダント、ペン立ての素材準備の報告です。参加者 8 名で、多賀町の高取山ふれあい公園の工作室で、ヒノキ、雑木材から ペン立て素材 115個、ペンダント素材 110個を用意できました。午前の作業の後、公園内にあるピザ窯で寺尾シェフのリードで、チーズピザ、ベーコンピザ、シーフードピザ、肉団子ピザなど各種のピザを作り、ランチにしました。最後は、寺尾シェフ自慢の本格的ドリップコーヒーで、本日の作業を締めくくりました。
(吉井)



【活動予定】

■7月 8 日(土) 琵琶博フェスワークショップ

■7月 9 日(日) 里山体験教室(夏)下見

■7月 16日 (日) 里山体験教室(夏)本番



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス:shoku-kan@lbm.go.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

その都度自由に参加できる気軽な観察会を、会の発足以来長年にわたり開催してまいりましたが、2017 年初めから、少し会の運営方針を変えて活動しています。

毎回、新しい発見と「植物って、そんなことしているのかぁ！」という驚きに満ちています。

【活動報告】

■6 月 11 日（日） 瀬田公園で「お出かけ観察会」

参加者: 8 名

講師として布谷さんに来ていただきました。

ユリノキの花は咲き終わっていましたが、昨年の実の枯れた形と今年の雌しべの形を見比べて仕組みを確かめたり、葉の根元に着く托葉の大きさに驚いたりしながら、駐車場を出発。その後もゆるゆると歩きながら、アカメガシワ、タオザンボク、コナラ、ヘクソカズラ、クロガネモチ、ナンキンハゼなどを観ました。昼食後は、水辺でモウセンゴケの群生しているのを観たり、「本当に虫を捕るのかぁ？」と巻いていそうな葉を無理矢理はがしてみたりしました。黒っぽい小さな虫がまだ動いてはいるものの脱出できずにくっついていて「実際に捕るんだ」と感心しました。

別の場所へ移動してからも、スゲの仲間やコモウセンゴケの仲間（トウカイコモウセンかどうかは不明）、イソノキ、ヤマコウバシ、ウメドモドキなど植物を見ながらたくさん話し、植物の話をたくさん聞いて、楽しい時間を過ごしました。



コナラの実（まだ5mm くらいです）



タイザンボク（植栽）



ソメイヨシノ? (植栽)



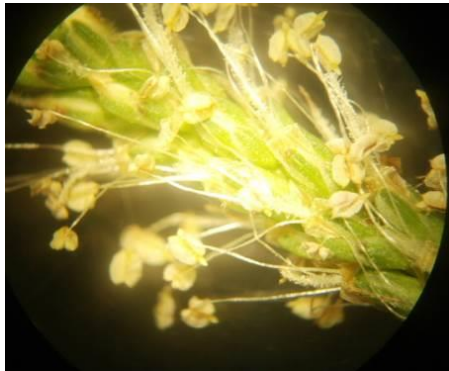
モウセンゴケの仲間

■7月2日(日) 暑い時期ということで、各自が持ち寄ったものを観察

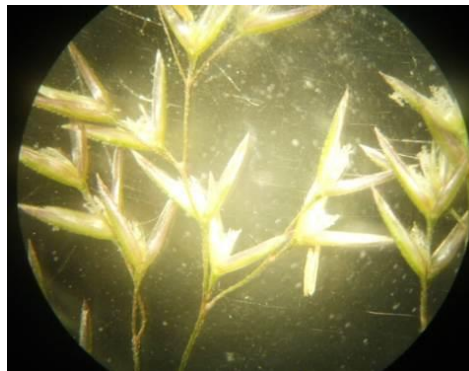
参加者：6名

オオバコの花の観察に始まり、ホタルブクロとヤマホタルブクロの違いは何?、よく見かけるけどこれはヌカボで合っているの?、スギナの胞子はどんな形?、タケとササの見分け方やはっきりした違いはどこ?などなど、みんなで話をしながら観察をしました。どれも、図鑑の詳しい文章と照らし合わせ、「これかも・・・、いやちがう・・・、うーん、きっとそうだ!」などと話しながら、解決??の道へと進みました。実物だけでもダメだし、図鑑だけ眺めていてもダメで、両方が同時に見られることが大事だとも感じました。またそんな中で、「日常的に他所(よそ)ではこんな話はやらないもんね(笑)」「ここだったら植物の話ばかりしていても、だれも何とも思わないし楽しいよね(o^o^)」という話も・・・。

最後に芦谷先生と別の方に持ってきていただいたイヌタヌキモの捕虫囊(のう)をみました。図鑑には「捕虫囊には感覚毛があり、囊(ふくろ)の入り口に弁がある」と書いてあり、感覚毛は「これしかないよね」とわかったのですが、「入り口」「弁」は、あれこれゆすったり虫らしきものを近づけてみたりしましたが、わからずじまいでした。



オオバコ



ヌカボ



イヌタヌキモ

【活動予定】

■8月6日(日) 13:30~16:00 場所：琵琶湖博物館 実習室1 「調べたい物を持って集まろう ②」

- ・暑い時期になりますので、各自持ち寄った物を使って調べます
- ・室内での活動です
- ・この日に、9月、10月、11月の予定を決めます

■毎月第1日曜日の午後に予定です。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。

活動にご興味をお持ちの方は、メールにてご連絡ください。活動日に直接来ていただいても構いません。

外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定です。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。

※この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください。

または、直接実習室へお出でになりご参加くださっても結構です。



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21 名】

グループ代表アドレス: keisou@lbm.go.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

【活動報告】

日本珪藻学会第38回大会(東京・大森; 5月27日・28日)に、会員3名と影の会長が参加してきました。服部圭治会員が「東海層群亀山層から産出した *Praestephanos suzukii* 類似種化石の形態観察」というタイトルで研究発表を行い、見事、最優秀発表賞を獲得しました。たんさいぼうの会からは、昨年10月の日本珪藻学会第36回研究集会(山形)での富小由紀会員に続く連続受賞です。

琵琶博フェスティバル(7月8日・9日)で、たんさいぼうの会は「琵琶湖の小さな生きものを観察する会」とともに、ワークショップ「みんなが夢中!? 水の中の不思議な世界」を開催しました。マイクロアクアリウムに普段展示しているのとは異なる様々な微小生物を持ち込み、その解説をしました。もっともたんさいぼうの会からの参加は、「琵琶湖の小さな生きものを観察する会」とかけもちの1名だけでした。

根来健会員が「環境技術」4月号で特集「珪藻類が指標する様々な環境」を企画しました。影の会長も記事を書いています。この特集が、珪藻の入門書として評判を呼んでいるようで、今も少しずつ売れているとのこと。はしかけ会員の皆様に購入希望者は、琵琶湖博物館で受け渡しをすれば送料がタダになりますので、上記代表アドレスにご一報ください。

たんさいぼうの会第53回総会を、7月16日(日)の10時から、草津市まちづくりセンターで開催しました。10人が参加し、それぞれの活動報告、今後の活動の打ち合わせ、そして2題の研究報告が行われました。

服部圭治氏: 東海層群亀山層から産出した *Praestephanos suzukii* 類似種化石の形態観察

三田村緒佐武氏: 勘違いの湖沼調査を避けるために(電気伝導度編)

会員は現在、各地の湿原の珪藻の写真を手分けして撮影しています。蜗牛の歩みではありますが、主役(主著者)を交代しながら、1つずつ確実に論文にしていこうと思います。

【活動予定】

8月・9月は、会としての活動は予定されていません。引き続き個々の担当の顕微鏡写真撮影・整理・同定などを進めていきます



(13) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 33 名】

グループ代表アドレス: tambo@lbm.go.jp

グループ担当職員: 鈴木隆仁

今年の調査シーズンも終了し、田んぼメンバーはやっと一息ついているところです。3週にわたる調査で集まったサンプルは盛夏の同定会へ回されます。最近はグループごとの広域調査が増え、全員が集合するのは今年も瀬田・石山の1回きりでした。ですからどこの調査で何が見つかったのか、情報が集まるのは同定会。参加しましょうね!

【活動報告】

■5月28日(日) 調査1回目

参加者: 9名

3つのチームに分かれ、「草津・守山・近江八幡」「湖南・日野・竜王」「東近江」を調査しました。どの地点もそこそこエビ類が見つかりました。

■6月3日(土) 補助調査1

参加者: 2名

新規加入のメンバーの研修を兼ねて、大津市田上地区の調査を行いました。

■6月4日(日) 調査2回目

参加者: 9名

3つのチームで「高島・今津・マキノ・塩津中」「伊吹・米原」「野洲・栗東」を調査しました。当初予定していた彦根は、ブルーインパルス来訪による交通規制のため、あきらめて後日ということにしました。湖北チームは収穫が少なかったのに対して、野洲・栗東チームは非常に多くのエビ類が見つかって帰宅が遅くなったようです。

この日は風が強くつらい調査でした。記録用紙が飛ばないかとひやひやでした。

■6月6日(火) 補助調査2

参加者: 2名

6月4日に行けなかった彦根と守山の調査を行いました。

■6月10日(土) 補助調査3

参加者: 2名

6月10日が雨の予報を受け、一部メンバーで調査が行われました。

■6月11日(日) 調査3回目(合同調査)

参加者: 9名

初参加のメンバーも含め参加者全員が顔を合わせ、瀬田・石山の調査を行いました。
雨にはならず、予定を完了することができました。

【活動予定】

それぞれの調査で集めたサンプルの同定会が8月20日10:30から行われます。自分が採集したサンプルが記録した通りのものなのか、顕微鏡下で確認します。

まだ調査に参加していないメンバーや、同定に自信のないメンバーにとっては勉強の機会です。多数の方の参加をお待ちしています。
(石井千津)



(14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: h-tanpopo@lbn.go.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

今年のタンポポのシーズンは終了しました。グループとしての活動は、あまり展開できませんでしたが、来年のシーズンに向けて準備をしようと考えています。調査だけに特化するのではなく、タンポポそのものを楽しむグループでもありたいので、名称の変更を検討しています。

＜タンポポ調査はしかけ、継続活動中！ 次の調査までは、突っ込み型の取組みをしていきます！＞

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本 2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年にも実施される予定です。

2015年の調査は終了しましたが、2020年の調査をより充実した内容の濃いものにするために、「タンポポ調査はしかけ」の活動は継続しています。2020年の調査までに、広域調査の調査方法では調べることができない、タンポポの種類ごとの生態や、分布と環境との細かな関係性など、つつこみ型の調査や勉強をしていこうと考えています。

＜2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書をご希望の方はお知らせください！＞

「タンポポ調査・西日本 2015」の報告書および結果チラシをご希望の方は、上記アドレスあるいは芦谷まで直接お尋ねください。チラシを配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

＜引き続きメンバー募集中！ 既存メンバーについてはMLを見直します！＞

今回の調査(2019年予備調査、2020年本調査)を視野に、活動をしております。このはしかけグループでは、短期間の分布調査だけでは明らかにできないタンポポの疑問を、少しでも解決したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！現在のメーリングリストを見直して、新たに連絡体制を整えたいと思います。メーリングリストに入れて欲しいというご希望の方は、上記アドレスまで連絡をください。

【活動報告】

6月と7月は、特に活動はありませんでした。

【活動予定】

具体的に決まっている活動はありません。メーリングリストでお知らせします。





(15) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 11 名】

グループ代表アドレス:bck@lbn.go.jp

グループ担当職員:大塚泰介

【活動報告】

■6月3日(土)

参加者:6名

今回は琵琶湖博物館学芸員の鈴木隆仁先生にイタチムシやプランクトンなどについてご教授いただきました。博物館の田んぼや池で採集を行い、実習室で顕微鏡観察を行いました。観察する会では普段、琵琶湖の生き物を観察することが多いですが、今回は琵琶湖では見ることのできない田んぼのプランクトンを観察することができました。また鈴木先生の撮影したプランクトンの珍しい動画も見せていただくことができました。

■7月8日(土)、9日(日)

参加者:5名

今回は琵琶博フェスでワークショップを行いました。今年はマイクロアクアリウムのスペースを借りて、観察する会のメンバーが普段観察している一風変わった(?)生き物を来館者に紹介しました。普段マイクロアクアリウムで展示していない生き物も有った為、来館者だけでなくマイクロアクアリウムの交流員さんにも好評でした。



田んぼでの採集風景



イタチムシ



ワークショップの風景



【活動予定】

以降の開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(16) びわたん 【活動報告日の活動会員数(のべ) 30 名】

グループ代表アドレス:biwatan@lbn.go.jp

グループ担当職員:奥野知之、小林偉真

6月のわくわく探検隊では、B展示室を利用して縄文時代の歴史に触れながら、ペンダントトップを作るというとても楽しい活動を行うことができました。また、7月のわくわく探検隊では、びわ博フェスということもあり博物館全体が盛り上がった状態で、水草青写真を撮る活動ができました。

【活動報告】

■6月11日(土) 「ドキ土器!おしゃれもようを楽しもう!」

参加者:52名(うち会員:17名)

当日は、13時の受付からあっという間に定員の30名になりました。事前に調べて参加しようと考えてくださっていた方が多かったようです。

まずは、博士の方から縄文土器や縄文時代の生活についての話がありました。縄文時代は、平成や昭和に比べるとはるかに長い期間であることを認識できました。B展示室の観覧がありました。長い列になってしまいましたが、琵琶湖に貝塚がある驚きや縄文土器を使った生活を感じることができました。最後に、お待たせの縄文模様によるペンダントトップです。作り方の説明を聞いて、みなさん思い思いに作品作りに没頭することができました。また、模様や形も色々工夫して楽しんで取り組むことができました。粘土が焼けるまでに時間があるので、麻紐を使って縄文紐にも挑戦をしました。焼き上がったペンダントトップに縄文紐を通して出来上がりです。首からかけるみなさんのうれしそうな顔が印象的でした。オープン粘土で作ることができるので、皆さんもぜひ挑戦してみてください。(おんちゃん)



■7月8日(土) 「水草を観察しよう」

参加者:27名 (うち会員数:13名)

びわ博フェスの1日目でしたが、毎月恒例のわくたんイベントとして開催しました。

当日は、27名の参加者があり、水草観察と青写真作成を行いました。

今回の水草博士である芦谷学芸員から水草についてのお話を聞き、琵琶湖で採集した水草を観察しました。水草の生え方にいくつかの違いがあることや、葉や茎、根の形や大きさ、水辺で生きる工夫などの話を聞き、参加者は興味深そうに水草を観察しました。

水草観察後は、「青写真作り」をしました。今回は、琵琶湖の水辺をテーマに、観察した水草や魚の写真を使って青写真を作りました。

青写真は、感光紙に光を当てて、実物の影を青く定着させたものです。琵琶湖をテーマに水辺や水中を表現することで、青と白のコントラストが清涼感を表現してくれます。参加者は水草を2〜3種類選び、博物館の魚チラシから好きな魚を切り出し、思い思いにレイアウトしていました。レイアウト後は、屋外にて感光紙に太陽光を当てましたが、当日はあいにくの曇り空で光量の調節に苦労しました。

仕上げに感光紙にアイロンで熱を加えて実物の影が青く浮かび上がると、「わあ〜、すごい!」や「きれい!」という声上がり、2作品目に挑戦する参加者が多かったです。水草と魚のレイアウトや光を当てる時間に工夫を凝らしながら、参加者は楽しんで過ごしていたように思いました。

(こばやん)



【活動予定】

■9月9日(土) 「葉っぱの形に注目しよう!」

■10月14日(土) 「骨にふれてみよう!」



(17) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

ほねほねくらぶ

グループ代表アドレス:hone-hone@lbm.go.jp

グループ担当職員:松岡由子, 高橋啓一

【活動報告】

■5月27日(土)

参加者:3名

ハクビシンの計測、皮剥ぎ、イタチの計測、皮剥ぎ、除肉、フナ骨のクリーニングを行った。ほねほねくらぶの活動に参加いただく方で、解剖などの経験があるという方は珍しい、ハクビシンの制作を担当いただいた方もこれが初めての標本作り。計測、皮剥ぎと丁寧に進めていただきました。

■6月11日(日)

参加者:4名

ハクビシンの皮剥ぎ、イタチの皮剥ぎ、イタチの除肉、キジ骨のクリーニングを行った。

■6月24日(土)

参加者:4名

スズメの幼鳥の標本製作、フナ骨のクリーニングを行った。スズメの幼鳥は、小学生のお子さんが拾ったスズメを、標本にしたいとご相談いただき、そのお手伝いをさせていただいた。お話をさせていただいていると、いろいろな事に興味関心をお持ちで、今は鳥に関心が強いそう、冷凍されている鳥を見てお手持ちの鳥類図鑑を開いて種名を調べて教えていただいたり、活動終了後も博物館の周りをバードウォッチングしてからお帰りになるとの事、その行動力に圧倒されてしまいました。

■7月9日(日)

参加者:3名

琵琶湖博物館で開催されたびわ博フェスにおいてワークショップ「骨に触ってみよう」を行いました。

ニホンジカやツキノワグマの全身の骨に触っていただいて順番に並べてもらったり、数種類の動物の頭骨を並べてなんという動物のものか当てていただくというコーナーを作ったり、他にも標本の展示やパネルによる活動紹介などを準備してお客さんをお待ちした。



目の前にある骨が何の動物のものか分かったと、ご自身でお持ちのイメージとの差に驚かれる方が多い。
動物の骨を見る機会も、実際の動物もまじかで触ったりするようなことはまず無いので、手にした時の大きさや細かい形などイメージとのギャップがあり面白がっていただけたのではないかと思います。

【活動予定】

8月、9月の詳しい活動日は現在未定ですが、
月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



(18) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ代表アドレス:midori-k@lbm.go.jp

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■5月23日(火) 13:00～ 場所:琵琶湖博物館 生活実験工房

参加者:4名

ドクダミの摘み取りともぐさ用のヨモギの刈り取り

今年は暖くなる日が遅く、ヨモギとドクダミの成長に一喜一憂しましたが、活動当日は、どちらもちょうど良いタイミングで刈り取りと摘み取りができました。ドクダミのチンキには、サトウキビで出来たホワイトリカーを使用していましたが、今回は米でできたホワイトリカーを使用し、化粧水にしたときの使用感の違いなどが、わかればと思います。ヨモギも用途が多く、もぐさにする工程は大変ですが、ほんのりじんわりあたたかいお・灸なるのが楽しみです。



☆ ドクダミチンキ作り…チンキとは植物をアルコールに漬け、成分を取り出したもの



☆ もぐさ用のヨモギの刈り取り…お灸の原料のもぐさは、背の高く伸びたヨモギで作られる。

■6月25日(土) 13:00～ 場所:琵琶湖博物館 生活実験工房

参加者:10名(うち会員9名)

びわの葉療法「びわの葉・種を使って体のお手当やエキス、お茶作り」

- 内容・・・
- ★びわの葉こんにやく湿布
 - ★びわの葉・種のエキス作り
 - ★びわの葉を使ったお茶作り

びわの葉こんにやく湿布では肝臓、腎臓などを温めお手当しました。体が温まり、緩まりリラックスをして日頃の疲れを取りました。びわの葉エキスとびわの葉入りの薬草茶と合わせ、びわの葉の入浴剤も持ち帰りしていただきました。

感想

- ・万能薬と聞いていた、念願のびわの葉エキスを作ることができてうれしいです。
- ・桑の葉茶の効能などの豆知識も聞けてよかったです。
- ・自然の物を暮らしに生かす知恵、すばらしいですね。
- ・コンニャク療法を体験することが出来てとても感激しました。想像していた以上に、体が冷えていること、そしてコンニャクの温かさがあんなに続くとは・・・。

- ・そのびわの葉と一緒につかうことでの効能が沢山あることを知り、驚きました。
いにしえから伝わる民間療法が今も脈々と続いていることを実感した時間でした。
- ・こんなにやく湿布は身体の芯から疲れがとれたように感じました。気持ちよかったです。



**■7月9日(日) 15:00～ 場所：琵琶湖博物館 生活実験工房 参加者：15名(うち会員10名)
びわ博フェスワークショップ「葉っぱのスタンプでオリジナルハンカチを作ろう！」**

今年のびわ博フェスでは、藍の葉を使った葉っぱ染めの作品を作るワークショップを、当初は計画していましたが、藍がうまく成長しなかったため、今年は「ザ! ディスカバはしかけ」と、葉っぱを使ったスタンプでハンカチを作るワークショップを合同で行うことになりました。

試作品を作っている段階で、布用のスタンプとアクリル絵の具を2種類用意していましたが、布用のスタンプの方がきれいに仕上がるので、そちらを使うことになりました。ワークショップの整理券を手作りし、その半券にも葉っぱスタンプを押してみました。葉っぱのスタンプは、葉の裏側にスタンプをぬる方が、葉脈をきれいに写すことができました。ワークショップはすぐ満席になりました。ご家族連れの参加が多かったと思います。学芸員さんに説明してもらいながら、生活実験工場の外に出て、自分の好きな葉っぱを取りに行ってくださいました。スタンプは小さいお子さんには少し難しかったかもしれませんが、はしかけメンバーが丁寧に教えてくれていたこともあり、皆さん上手にできていました。

お子さんよりもお父さん、お母さんが夢中で製作されている姿もありました。植物の名前を学芸員さんに聞いて、スタンプを押しているお子さんもいました。そんな姿を見ていたら、個人的には夏休みの自由研究にもいいなと思いました。大人も子供も楽しめるワークショップになり、大変良かったと思います。但し、満席になってしまい、工房まで足を運んでくださったのに、参加できなかった方には申し訳なく思いました。



野外に出て葉っぱさがし



葉脈が美しくスタンプできた。



植物の名前の勉強にもなりました。

感想

- ・とても楽しかった。みなさん満足できた企画だったと思う。
- ・「出来たよ～」とハンカチを見せてくれるお子さんの笑顔が印象的だった。
- ・子供と体験させていただき、新しい発見があった。
- ・葉っぱをじっくり見ることができ、いろいろあるのだなと思った。

【活動予定】

- 9月 植物染め
- 10月 くつきの森 散策

※ 日時は未定です。

**【活動報告】**

■5月21日(日)13:00~15:00 場所: 森林公園「くつきの森」高島市朽木麻生 参加者: 2名(博物館職員) 林、大槻
ユリノキ祭と観察会

午前中は朽木ユリノキ祭りで琵琶湖博物館の植物観察会に参加した。ユリノキ広場〜ほとらんど〜かみなり橋〜ユリノのコースを林さん、大槻さんの案内で観察した。午後は森人としてやまね館、からみ谷方面で森の観察を行った。満開のユリノキや満開を少し過ぎた山の花をつけたハンカチノキをはじめ、いろいろな動植物を見ることができた。



■6月3日(土)13:30~16:00、場所: 生活実験工房、参加者: 5名 (博物館職員) 林
動物カメラの電池交換、樹冠トレイルに設置する解説版・案内版の打ち合わせ

- ①樹幹トレイル解説版の検討: 解説版(A3版で耐久性のあるもの)は樹木に関しては照葉樹林を代表するシイ・カシ類、タブ類など樹木以外では屋外展示で見られる鳥類、哺乳類、昆虫とし写真やイラストを使い使い説明する。その他にトレイルから見える木にはA4ラミネート版の解説を付ける。このほか樹幹トレイル案内パネルや展望デッキ眺望解説パネル、注意書きパネルの設置も必要であり今後、見積もり金額を踏まえて検討する必要がある。
- ②動物カメラ点検: 今回は初めてアカハラ、珍しいクロツグミとコルリが撮影された他、前回から新たにセットした落葉広葉の森の水路ではネズミが多数、オニグルミ下ではネズミの動画が撮影された。



■6月24日(土)11:00~15:00 集合場所: 大津市上田上桐生町「一丈野駐車場」参加者: 4名(博物館職員) 林、草加
桐生の植物観察会

一丈野駐車場からスタートし奥池、タマミズキの道へ向かった。早速赤く熟したニガイチゴを見つけ試食した。名前に反しなかなかいいける。この辺りは二次林でアカマツ、ネズ、ヒノキ、コナラ、アラカシ、ソヨゴ、リョウブ、コバノミツバツツジ、モチツツジなど多くの樹木がある。水が浸みだす場所にはモウセンゴケも生えていた。大きなハンノキ林の横から奥池の端を通り徐々に山道を登っていく。この辺りはヒノキの植林帯やカキノキ、タマミズキも所々に生えている。予定時間を過ぎタマミズキの道の東屋で昼食休憩をとった。この辺りでは珍しいアオモジと思われる幼木を見た後、登山道に入る。標高が高くなるにつれ花崗岩の岩が目立つ山肌はアカマツ、ネズ、ヒメコマツなど針葉樹の割合が多くなってきた。谷部の川沿いの湿地ではモウセンゴケ、ミミカキグサ、ガンピなどの花やアリノトウグサ、ヘビノボラズなどが見られた。動物ではオオルリやキビタキのさえずりが響き、ツチガエル、サワガニや生息数が減少しているといわれるイシガメ(幼体)にも出会った。この時期にしては好天に恵まれ、岩だらけのやせた土地にも環境に適応して生きている多くの動植物の様子を見ることができた。



■7月8日(土)10:00~15:00

参加者: 5名(博物館職員) 林

琵琶博フェス参加(ガイドツアーを実施)

内容: ①10:00~12:00 動物カメラの点検とガイドコースの下見 ②13:00~14:00 屋外展示のガイドツアー 暑い中、15名の方々に参加をいただいた。第二期リニューアルで設置予定の樹幹トレイルの紹介や縄文・弥生の森では縄文杉、シイ、イチイガシ、ムベ、タブ、クスノキなど、太古の森ではオニグルミ、フウ、スイショウ、ハンカチノキ、メタセコイア、セコイアなどについて説明した。またドクダミ、クサギ、ゲッケイジュ、クスノキなどの植物の特有の臭いも体験してもらった。ガイドツアーは今回4回目で試行錯誤しながらやっているが、子供から大人まで楽しんでもらえるように森人一同さらに勉強していきたい。

ナワシロイチゴ



イチイガシ



フウ



オニグルミ

【活動予定】

- | | | |
|-----------------------|------------|------------------------------|
| ■7月22日(土) 13:00~16:00 | 場所: 生活実験工房 | 内容: 竹の伐採 |
| ■8月12日(土) 13:00~16:00 | 場所: 生活実験工房 | 内容: 動物カメラの確認と樹幹トレイル解説版の検討など。 |
| ■9月9日(土) 13:30~16:00 | 場所: 実習室2 | 内容: わくわく探検隊「葉っぱの形に注目しよう!」に参加 |

- ★森が好きの人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ「森人」に参加しませんか
★参加を希望される方は 森人(もりひと) morihito@lbm.go.jp に連絡ください。



(20) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: chikoaso@lbm.go.jp

グループ担当職員: 澤邊久美子

6月のちこあそは、あいにくの雨模様。ですが、「雨でも、雪でも、寒くても、暑くても」自然を楽しんでもらおうと思っていましたら、5組の親子が来てくださりました。カッパを着て、ルーペをぶらさげて、生活実験工房を出るとすぐに「発見!」バンダナおじさんが育てている野菜の葉っぱをムシャムシャ食べているアオムシさんがいっぱいいました。一つひとつ手にとってはルーペで観察。小さいアオムシ、大きなアオムシをルーペで覗きながら、生き物の面白さを感じます。全部で数十頭のアオムシがいて、こんな小さな自然にもこんなに命があるなんてとお家の方も驚き。小ぶりの雨の中、森を探検していると、カタツムリが出てきました。デンデンムシムシ♪と歌いながら、じっくり観察。雨だからこそ見られる自然に感謝です。今回はディスカバリールームにもお邪魔して、外の自然、中の展示を比べて体験してもらいました。そしてお昼にはバンダナおじさんから、工房の採れたてキュウリをいただいたりして、美味しい体

験もありました。

びわ博フェスでも「ちこあそ」ということで、土曜日の朝から実施しました。来館の方が少ないかと思いきや、46名の方が参加してくだりました。「ギザギザ」「穴の開いた葉っぱ」「セミの抜け殻」「えだ」「丸いもの」「ドングリ」などのお題シールを貼った、お菓子の箱を持って、森で探検。子どもも大人も、森の下を上を眺めてお題の自然を探して拾います。拾えたら、生活実験工房で箱に貼りつけて、森の宝箱の完成！近くの人と見せ合いっこをして楽しみました。普段は1歳～4歳位のお子さんとお母さんという参加が多いのですが、今回は土曜日に実施しましたので、小学生のお兄ちゃんお姉ちゃん、お父さん、おじいちゃんといったご家族での参加が多く、新しいちこあその展開ができました。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。

<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
6月	4月19日（水） 10:00-14:00	雨でも遊ぼう ちこあそ6月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：会員4名、幼児5名、保護者5名、学生1名
7月	7月8日（土） 10:00-12:00	びわ博フェス 森の宝箱をつくろう！	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：会員4名、子ども28名、保護者18名、学生1名

【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
7月	7月19日（水） 10:00-14:00	夏をいっぱい感じよう ちこあそ7月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。

※新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

【活動写真】

（6月）



工房前でアオムシさんを見つけたよ。



お母さんとかたつむりをじっくり、眺めてます

（びわ博）



森の宝箱づくり。こんなのができましたよ。



森の宝箱づくり。何を探しているのかな

（池田 勝）



(21) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10 名】

グループ代表アドレス: junrei-rekisho@lbn.go.jp

グループ担当職員: 橋本道範, 渡部圭一

【活動報告】

■6月7日(金)

場所: 和野 長福寺

参加者: 3名

甲賀准四国の札所であったが、現在は廃寺になっている水口町和野の長福寺の石碑調査を実施。甲賀准四国の石碑はなかったが長福寺と書かれた西国 33 霊場の石碑を発見。

■6月26日(水)

場所: 磯尾 医王寺

参加者: 2名

岩尾山の息障寺の札所の石碑調査を実施。旧参道の入り口で甲賀准四国の石碑を発見した。裏面には新田大師講の文字が見られ当時の信仰の深さを感じることが出来た。

■7月8日(土)

場所: 琵琶湖博物館

参加者: 3名

びわ博フェスにてポスターを掲示して活動を報告。

■7月9日(日)

場所: 甲賀甲南 12 か寺

参加者: 2名

甲賀町・甲南町方面 12 ヶ寺の訪問と札所の石碑調査を実施。破損したが平成に再建立された石碑も見ることが出来た。2016 年以前も含め寺院訪問は 43 ヶ寺を達成した。



長福寺の石碑



息障寺の石碑



フェスのポスター

【活動予定】

甲賀准四国設立発起者の子孫の方々への訪問と中間報告会と勉強会の実施。

※この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。

(福野憲二)



(22) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15 名】

グループ代表アドレス: mushikake@lbn.go.jp

グループ担当職員: 八尋克郎

【活動報告】

■6月17日(土) 午前

場所: 琵琶湖博物館生活実験工房

参加者: 8名

室内講座 蝶の乾燥標本の軟化展翅について講義を受け、実習しました。

■6月24日(土) 10:00~22:00

場所: 高島市朽木

参加者: 7名

野外調査・灯火採集。朽木にて昆虫観察、採集をしました。

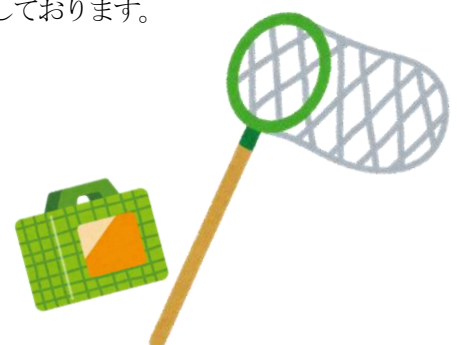
日中は気温が高すぎたためか、観察できた昆虫はやや少なめでしたが、夜の灯火採集ではガ類、甲虫類等、多くの種類を確認できました。

【活動予定】

今後、1か月に1回程度の野外調査、2か月に1回程度の室内勉強会を予定しております。

詳細は検討中です。

ご興味をお持ちの方は、グループ代表アドレスまでご連絡ください。



生活実験工房からのお知らせ

担当職員: 下松孝秀

※生活実験工房の先日の昆虫採集体験では、天候に恵まれ、多くの方の参加をいただき無事終わることができました。これからはいよいよ稲の穂が出て、収穫を待つ季節となります。9月、10月には稲刈りのイベントがありますので、はしかけ、フィールドレポーターの皆様のご参加をお待ちしております。

【活動予定】

開催時間 10:00～12:00 場所：全日程とも生活実験工房

- 9月10日（日） 稲刈り、はさ掛け（早稲品種）
- 10月8日（日） 稲刈り、はさ掛け（晩稲品種）
- 11月26日（日） 収穫祭

※一般参加者の受付は、9:30 からです。

稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。



5. その他の事項

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に、はしかけグループ担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループの代表アドレスにご連絡ください。

(2) 名札（会員証）の写真について

名札（会員証）の写真を更新されたい方は、はしかけアドレスの hashi-adm@lbm.go.jp まで送ってください。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3) 会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4) 活動中に事故が起きたら

加入者カードに書いてある連絡先（社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923）へ、速やかに連絡してください（各人で連絡）。手続きには、グループ担当者（学芸員）の活動証明が必要ですから、各グループの担当者まで連絡してください。詳しくは、平成29年度の「ボランティア保険」パンフをご覧ください。パンフは、はしかけ事務局（博物館学芸事務室）にもあります。